



平成 27 年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	せいふうなんかいこうとうがっこう				②所在都道府県	大阪府
27～31	①学校名	清風南海高等学校					
③対象 学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	中学校 816人	
普通科	313	331	384		1028	(1年: 295 2年: 269 3年: 252)	
						高等学校(普通科) 1028人	
⑥研究開発 構想名	「エネルギーの観点から世界の改革を図る —未来を創造する産官学グローバルネットワーク構想—」						
⑦研究開発 の概要	新規にグローバルコースを設置し、以下の取り組みを行う。 I、「シナリオ・プランニング」を用いた未来予測を、国内外の産官学と協働して行う。 II、Iに必要な専門的視座を得るため、「PESTゼミ」を開講する。 III、Iの協働演習を円滑に進め、効果的に発表するために「GE」を実施する。						
⑧ 研究 開発 の 内容 等	⑧- 1 全 体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>【目的】 グローバル・リーダーを「地球規模の視野を持って世界のあり得べき未来図を描き、社会をより良い方向に導いていく人材」と定義し、その育成のために、「未来を読み解く力」と、「世界に発信する力」を身につけるための教育システムを開発する。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス手法「シナリオ・プランニング(以下SP)」を学習教材として体系化する。</li> <li>・国内外の産官学と、SPの協働演習を通じて交流し、その手法を普及する。現在11の協力団体を指定期間中に50に増やす。</li> <li>・海外との交流機会を増やし、4技能全てを高めるための英語教育を行うことで、TOEFL iBT100点以上取得者を60名以上輩出する。</li> <li>・課題研究に必要な情報処理を円滑に行うために、情報技術の実践的な国家資格「ITパスポート」を全員が受験し、合格する。</li> </ul> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>日本の伝統的な価値観を重んじる教育を行ってきた本校は、高い進学実績を誇り、優秀な人材を輩出してきた。その反面、生じてきた課題として、保守的なキャリア志向、英語学習における「話す」能力の未成熟、主体性の不足、情報技術の未習得等が挙げられる。SPを用いた未来予測を高度なレベルで行い、その研究成果を効果的に発表するための力を身につけることで、これらの課題を克服できるという仮説を立てる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>年に2回中間発表会を行い、高校3年次には市のホールを用いて研究発表を行う。各プログラムに関する感想を毎回生徒から集め、編集して開示する。英語版のHPも作成する。協働演習を通じてSPを教材として普及し、共に未来を考えるネットワークを構築する。</p>					
		⑧- 2 課 題 研 究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>テーマ：「シナリオ・プランニングを用いて未来のエネルギー事情を考える」</p> <p>大手エネルギー会社ロイヤル・ダッチ・シェル社が用いたことで有名なシナリオ・プランニングの手法を取り入れた未来予測を、昭和シェル石油(株)の専門家による監修を受けて高校生向けに教材化し、実施する。これは複数の「起こりうる未来のシナリオ」を論理的に創り上げ、未来に備えようという方法論であり、多様な未来の可能性を考えることで、リスクを回避し、より望ましい未来への道筋を模索しようというものである。シナリオを作るプロセスの中で、視野を広げ、多様な「未来を動かす原</p>				

	<p>動力」となる要素を探し出し、それらの重要性や因果関係を考察し、主体的に未来を創り出す力を育成する。高校生の獲得し得る知識には限界があるため、生徒が課題研究として設定する未来予測のテーマを『エネルギー』に絞り、関連する情報を提供していく。</p> <p>SP を実施するためには教科教育の枠を超えた知識や分析力が必要となる。Political、Economic、Societal、Technological の4つのゼミを開講して専門的な視座を獲得する。生徒は1年次に全てのゼミの基礎講座を受講し、2年次にはいずれかのゼミを選択する。SP はこの4つのゼミから数名ずつを集めた10数人の班を一つの単位として実施する。</p> <p>高校3年次には、課題研究の集大成としての研究発表大会を、国内外の協力団体を招いて、生徒主体で実施する。</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b></p> <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週2時間の総合学習の時間を用い、各学年で以下のように実施する。        高校1年次：『PESTゼミ（基礎）』『GE』『PIT』        高校2年次：『SP』『PESTゼミ』『GE』        高校3年次：『SP』『GE』</li> <li>・外部の専門機関（大学、企業、地方公共団体等）や高校と連携し、研究開発内容について監修を求め、協働SP演習を行う。</li> </ul> <p>【検証評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各時間における自他の感想や評価を生徒から集めてポートフォリオ化し、検証する。</li> <li>・定期的にポートフォリオをもとにレポートを作成させ、検証する。</li> <li>・中間発表会、研究発表大会に各協力団体を招き、評価を求める。</li> <li>・定期的な生徒、保護者、職員に対するアンケートを実施する。</li> </ul> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b> 特になし</p>
⑧-3 上記以外	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表をより広範囲に効果的に行い、また、国外の協力校とも協働してSPを行うために、『GE (Global English)』の授業を行い、英語の4技能を育成する。</li> <li>・研究に要する膨大な情報処理を円滑に行うため、『PIT (Practical Information Technology)』の授業を行い、ビジネスレベルの情報処理技術を身につける。</li> <li>・「校内自由研究グランプリ」を実施し、個人単位での研究と発表を行う。</li> <li>・国語・英語・情報の授業内容を課題研究に則して改革する。</li> </ul> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b> 特になし</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外連携先の拡充と、そのための専門担当部署の設置。</li> <li>・ICT環境の充実として、各HRクラスへの電子黒板とPCの設置。</li> <li>・映像研究部の新設。</li> <li>・国内修学旅行を、海外への研修旅行に変更。</li> </ul>
⑨その他 特記事項	<p>本校は、上記の構想を実施するため、平成27年度よりグローバルコースを新設する。平成27年3月に、新規連携先であるマレーシア工科大学へ研修旅行を行う等、既にそのための取組みを開始している。</p>

